

## 福音一職業の 基盤となるもの



十二使徒定員会会員  
ボイド・K・パッカー

**啓** 示の中に繰り返し出てくるテーマに、学問を求めるということがあります。昔から教会の指導者は、将来の職業に備えて、あるいは仕事面での向上を図るために、機会をできる限り多くとらえて教育を受けるように勧告してきました。例えば、次のように記されています。

「汝ら努めて求め、互いに智慧ある言葉を教うべし。然り、汝ら最も善き書より智慧ある言葉を探し求めよ。また正に研究と信仰とによりて学問を求むべし。」(教義と聖約88：118；90：15；109：7も参照)

学問には、信仰が伴うべきです。そうすればモルモン経が教えているように、「学問のあるのも善いこと」(IIニーフай9：29)になります。

これらのことの重要性を理解していただくために、仕事や職業について話を始める前に、頭に入れておいていただきたいことがひとつあります。

それは、いかに生活状態が質素だからといって、自分自身を含め、決して人を軽視してはならないということです。賃金の低い労働者だからといって、その人をさげす

むようなことがあってはなりません。正直な仕事は、それがどのようなものであろうと、貴重で尊いものなのです。世の中の進歩発展に寄与している労働に対して、あるいはその世の中で生活を営んでいる人々に対して、「卑しい」などという言葉を使ってはなりません。

道徳的に正しい仕事であれば、何ら恥じることはありません。それに、主が学問と関連づけておられる信仰の原則は、人間の科学技術よりもはるかに貴重なものなのです。

わずかな財産と低収入のために生活に苦しむ人々の中には、貧しい生活を通して、次の聖句の本当の意味を悟る人がたくさんいることでしょう。「あなたがたのうちでいちばん偉い者は、仕える人でなければなりません。」(マタイ23：11；教義と聖約50：26参照)

一般には学校教育即教育と考えられていますが、学校の授業では教えてくれない知識もあります。

例をあげてみましょう。初めに旧約聖書に記されたナアマンの記録です。スリヤ王の軍勢の長ナアマンは、スリヤに勝利をもたらした人物ですが、らい病にかかっていました。王は彼の身を案じていました。

ところがナアマンの妻に仕える奴隷の中にイスラエルの少女がいて、イスラエルにはその病気を癒す力を持った予言者がいると告げました。

スリヤ王はさっそくイスラエルの王に手紙を書きました。「この手紙があなたにとどいたならば、わたしの家来ナアマンを、あなたにつかわしたと御承知ください。あなたに彼のらい病をいやしていただくためです。」これを読んだイスラエルの王は、策略だと思い込んで言いました。「わたしは殺したり、生かしたりすることのできる

神であろうか。どうしてこの人は、らい病人をわたしにつかわして、それをいやせと言うのか。あなたがたは、彼がわたしに争いをしかけているのを知って警戒するがよい。」

予言者エリシャは、王がひどく悩んでいることを聞き、王に人をつかわして言いました。「彼を私のもとにこさせなさい。」エリシャはナアマンを癒すことを約束し、そうする理由を告げました。「そうすれば、彼はイスラエルに預言者のあることを知るようになるでしょう。」

やがてナアマンがやって来ると、エリシャは使者をつかわして言いました。「あなたはヨルダンへ行って七たび身を洗いなさい。そうすれば、……清くなるでしょう。」ナアマンは怒りました。シリヤにはヨルダンにまさる川がたくさんあると思ったからです。彼が期待していたのは、エリシャが自分の前で手をたたくというような何か厳粛な儀式を行なうことでした。ナアマンは怒って立ち去りました。

しかしその時、ひとりのしもべが（いつもしもべが出てくるようですが）勇敢にも主人をいさめて言いました。「預言者があなたに、何か大きな事をせよと命じて、あなたはそれをなさらなかったでしょうか。」

しもべの言葉を聞いて謙遜になったナアマンは、「下って行って、神の人の言葉のように七たびヨルダンに身を浸すと、……清くなった」のです。（列王下5：1-14参照）

人間の本性というものは、時代が移っても変わるものではありません。今日においても、主の祝福を受けるために「何か大きな事」をするように命じられるものと思いついて入っている人がいます。そして、ごくあたりまえの事について、ごくあたりまえの勧告を受けると、ナアマンのように失望して、

立ち去ってしまいます。

最近の例をあげてみましょう。キンボール大管長は8年にわたって教会の大管長を務めておられます。そしてほとんどの大会の説教で、家をきれいにするように、ペンキを塗るように、壊れた部分を修理するようにという勧告を繰り返してこられました。しかし、多くの人はこの勧告に注意を払おうとしません。

そしてこう尋ねます。なぜ予言者がそんなことを言うのでしょうか。もっと素晴らしい予言はないのですか。

しかし、これこそ予言ではないでしょうか。キンボール大管長は何度も繰り返し繰り返し語ってこられました。「皆さんが持っている物質的な財産を大切にしてください。やがてそれらの物を手に入れるのが不可能ではないまでも、困難になる日がやってくるでしょう。」

この言葉はすでに成就しています。8年前には家を買うことができた人も、今ではその望みすら持てなくなっています。

なぜか私たちは、特に福祉部会において、将来の災害を予告する大きな予言を期待する傾向があります。しかし私たちが耳にするのは、ごくあたりまえのことについて勧告する静かな声です。そしてこの声に従うならば、大災害が来ようとも私たちは守られるのです。

アルマはこう言いました。「小さくてやさしい事から大きな事がでてくる。また小さな手段で賢い人をうち破ることがたびたびある。」（アルマ37：6）

さて、このようなことをお話ししたのは、私がこれから申し上げる勧告が、ある人にとってはあたりまえのこと、あるいはつまらないことに聞こえるかもしれないからです。しかし、この勧告は、福祉プログラムが初めて導入された時に大管長会が発表し

た教義や原則と一致するものです。

「私たちの第一の目的は、可能な限り、いまわしい怠惰や施しのもたらす悪弊を除き、独立心、勤勉、儉約、自尊心を再び私たちの間に確立する体制を築くことである。教会の目的は、人々の自立を助けることにある。勤労が再び教会員の生活を貫く原則にならなければならない。」(Conference Report「大会報告」1936年10月, p. 3)

自立を強調することは、教育とつながっています。しかし、すべての教会員の学校教育に対する責任を、教会に求めるわけにはいきません。

教会幹部は訪問先で、次のような言葉で始まる質問をよく受けます、「なぜ教会はこうしないのでしょうか……。」そしてその後には、もし実現すれば多くの人の役に立ち、教会の名誉となるような価値あるプロジェクトの説明が続きます。

例をあげてみましょう。なぜ教会は、会員の経済的な安定に向けて備えをさせるために学校を設立しないのですか。

何年も前のことですが、私は家の門のそばで、垣根に使う横木を割っていました。そこへひとりの青年が話をしにやって来ました。彼は海外での戦闘任務を終えて帰国したばかりでした。彼は自分の年齢をごまかし、学校をやめて海兵隊に入っていたのです。私は将来の計画について尋ねてみましたが、何も考えていないということでした。仕事が少ない時でしたし、彼は何の技術も身につけていなかったのです。

そこで、高等学校にもどって卒業するように勧めました。しかし彼は自分の年齢を考えて、それはできないことだと思っていました。私は言いました。「もし君が学校にもどったら、おそらくしっくりとはいかなさう。学生たちは君のことを『じいさん』と呼んでからかうかもしれない。でも

君は戦争で敵兵と向かい合ってきたのだから、そのくらいのことにはぶつかる勇氣は持っているはずだ。」

私が彼に忠告したのはそのことだけです。私はわずか10分間、門のわきの材木の上に座って話をしただけです。学校を建てることも、教会にそれを建てるように求めることもしませんでした。彼の学費を払ったわけでもないし、教訓めいた話を彼のために準備したわけでもありません。彼に必要なだったのは、進む道を教え、助言と励ましを与え、将来へのビジョンを持たせることでした。彼は私の助言を受け入れて学校にもどり、今では自分の家庭を持って仕事にも恵まれています。

私がその青年に与えたものは、将来へのビジョンと励みだけです。そうするのに、教会の予算を立て直す必要はありませんでした。職業について教会員に助言を与えるのは、すべての神権指導者に課せられた責任です。私たちは教会員が自立できるように助けなければなりません。

数年前になりますが、長い間の政治的、経済的な苦境から立ち直ろうとしている国がありました。その国では様々な種類の職業技術を身につけた人を必要としていました。地元でその必要性を痛感した神権指導者は、教会堂の中に職業訓練所を開設して兄弟たちに技術を身につけさせようという計画を思いつきました。そうすれば多くの教会員が職に就けるようになるからです。実に魅力的な計画でした。

この計画に経費がかかっても、職に就いた兄弟たちがそれ以上の什分の一を納めることになるから、十分採算がとれるという主張でした。しかし、教会幹部がこの計画を承認しなかったために、地元の指導者はひどく落胆してしまいました。

彼らは幾つかのことを見落としていたの

です。中でも最も重大なことは、その地区にはすでに職業訓練所があって、本当に訓練を受けたい人はそこを利用できるということでした。新しい従業員を訓練し、技術を向上させる教室が、企業や工場、あるいは政府によって開かれていたのです。

この兄弟たちに最も必要なものは、すでに与えられている機会を最大限に活用するようにという助言と励ましでした。

私たちの責任は、自己を向上させるためにあらゆる機会をとらえて、それを活用することです。

さて、教会がしなければならないことが幾つかあります。いずれも主から命じられていることです。例えば、教会は福音を宣べ伝えなければなりません。神殿を建てなければなりません。聖徒を完き者としなければなりません。これらのことは、教会以外の組織ではできないことです。そのほかにも（教会の使命の中心とはならない）善

いことは沢山ありますが、それらは二次的なものばかりです。どんなに価値あることでも、教会にはそれらを一から十まですべて行なうだけの財源はないのです。

教会は全会員のために学校を建てることはできませんが、私たちの仕事のために重要な貢献をしてくれます。それは教会に与えられた大切な使命です。すなわち、道徳的、霊的に価値ある事柄を教えるということです。

技術訓練以上に私たちの仕事に影響を与えるものに、次のような徳があります。

高潔

信頼性

礼儀正しさ

人を尊重する心

所有物を大切にすること

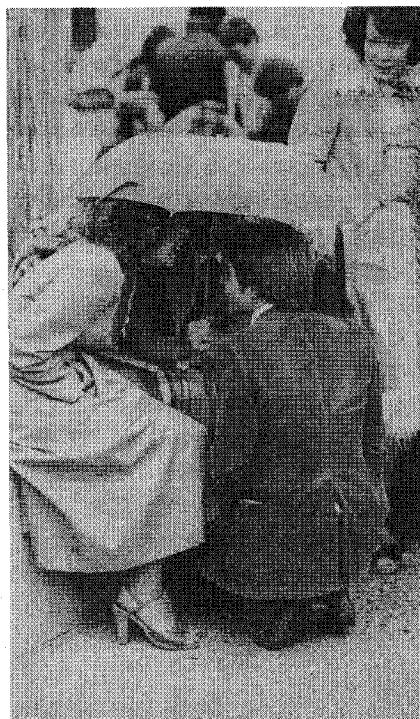
少し例をあげて説明しましょう。

私たちの息子や娘が結婚すると、少なくとも最初のうちはアパートを借りて生活することになると思います。

私は、中流の家族向けのアパートを多数経営しているステーキ部長と話したことがあります。彼は実際に現場を見せながら、アパートがどんなにひどい扱いを受けているか説明してくれました。その壊れ方は、通常の使用によるものでなく、破壊行為ともとれる乱暴な扱いによるものでした。

このような行為は、末日聖徒がとるべきものではありません。私たちは十分に承知しているはずで、必要ならばぎを打ち、ちょうつがいとを止めるぐらいのことは、進んで行なうべきです。

末日聖徒はアパートを自分の家のように扱い、いつも清潔で魅力的に整え、手入れが行き届いた状態にしておきます。予言者はそのように勧告しなかったでしょうか。また、アパートを出る時は、きれいに掃除をして、次の人がすぐに入れるようにしま



す。

さて、これが仕事とどのように関係するのでしょうか。皆さんも御存じかと思いますが、家庭の状態はそのまま仕事に置き換えられるものなのです。

私の父がまだ若く、子供を数人かかえていた頃のことです。父は事業を始めるための資金を借りに、少し気おくれしながらもブリガム・シティーの銀行へ行きました。すると担保があるか尋ねられました。父は、働く意欲と少しの技術のほかには何も持っていないませんでした。

銀行員は、父からの依頼を断わろうとして、たまたま父がどこに住んでいるのか尋ねました。西一番通りの角にある古い家です、と父は答えました。銀行員は通勤の行き帰りにいつもその角を通り、庭が美しく移り変わるのを目にしていました。そして、だれが住んでいるのかと思いつつ、手入れの行き届いた庭に感心していたのです。

こうして父は銀行から資金を借りて事業を始めることができました。すべては、簡素な借家の庭に母が植えた花のお陰でした。

私たち夫婦は、わずかな収入でたくさんの子供を育てました。子供たちもまた、同じ特権にあずかることでしょう。私たちはその準備をさせるために、将来の職業に役立つごくあたりまえのこと、必要なことを子供たちに訓練してきました。

例えば、(地下室の片隅などに)仕事机を置いて、仕事場を作りました。そこだけは、やりかけの仕事を放っておいても、ペンキやおがくずで床を汚しても良いのです。家をいつもきれいにしておくのはもちろんのことですが、そこだけは別でした。ひとつの目的があったからです。

また、我が家には次のような習慣があります。毎年クリスマスになると、息子たちに贈るプレゼントの中に大工道具をひ

とつ入れておくのです。やがて息子たちが成長したら、金属性の立派な道具箱を贈ります。家を出て独立する時には、大工道具一式がそろい、その使い方も習得しているわけです。簡単な車の修理や大工仕事、プラグや蛇口の交換ぐらいはできるようになります。

一方、娘たちには料理や裁縫を教え、各々がひとり立ちする時には、ミシンを持たせます。この訓練にはふたつの重要な目的があります。第一に、家庭で生活費を節約するため、第二に、仕事に役立つ技術を身につけておくためです。私たちは単に技術を身につけるだけでなく、それを活用するように願っています。

このような話をすると、一部の人は非常に怒って、なぜ男の子にミシンを贈らないのか、なぜ女の子に道具箱を持たせないのかと抗議してくるかもしれません。

そこで説明を加えておきますが、我が家の息子は伝道に出て困らないだけの料理はできますし、ボタンも付けられます。娘の方も、蛇口を交換したり、くぎを打つぐらいのことはできます。息子も娘もタイプは打ちますし、自分でタイヤも取り換えます。

男女両方に適した数多くの仕事がありますが、ここで私が心配することは、男性と女性の両方に、ある意味で各々の特質に反した職業を選ぼうとする傾向が高まっているということです。

私たち夫婦は、息子には男性としての仕事に就けるように、娘には女性としての特質を引き出せる仕事に就けるように、それぞれ準備をさせてきました。

そうしてきた者の立場から、私に言えることは、この教会においても良識になかった行動をとるべきであるということです。

現代人の中で、本当に喜んで仕事をしている人は数少ないと思います。私たちは、

受け取る給料に見合うだけの、できればそれ以上の仕事をするように、自分自身を戒め、子供たちを訓練しなければなりません。

少し早目に出勤してその日の仕事の準備をする人や、退社する前に少し残って翌日のために作業場や机の上を整理しておく人は、実に少なくなりました。

自分の行なった仕事以上の報酬や給与を要求する態度が、世界経済を崩壊寸前にまで追い込んだのです。しかし現在では、職を失わないために賃金カットを進んで受け入れる労働者が大勢います。給与以上の仕事をしようという精神がもっと早く現われていたら、経済危機は起こらなかつたでしょう。

家族に対する責任と家計の苦しさから、望みだけの学業を修めることのできない場合があります。

しかし、それでも自己を向上させることはできます。必要な授業料は、時間と、努力と、熱意です。需要が多くても供給できる人が少ないごくあたりまえの徳を、生活の中に築き上げるのです。

私の話を聞いて、皆さんが失望することのないように願っています。私は皆さんに、何か「大きな事」をするように言ったわけでも、職業を選択するための複雑な公式を紹介したわけでもありません。ただ、ごく身近にあるありふれた事柄で、しばしば見過ごしにされているものを取り上げたいのです。

ここにひとつの公式があります。主は次のように言われました。「われ誠に汝らに告ぐ、およそ己れの家族を扶養せざるべからざる男子には、ことごとく彼をして扶養せしむべし。然もこの者は決して冠を失うことなし。而してかかる者は教会の中にて働かしむべし。」(教義と聖約75:28)

イエス・キリストの福音は、成功するた

めの公式です。福音の各々の原則は、皆さんが職業を選択する時や何かを達成しようとする時に、はっきりとした影響力を与えます。「教会の中にて働かしむべし」という勧告は、大きな価値をもっているのです。福音に従って生活するならば、たとえほかの人が皆さんの仕事をつまらないものだと思っても、あるいは皆さんの人生を月並なものだと考えても、皆さんは将来への展望と靈感とを受けて、自分が成功していることを悟るでしょう。

この教会の会員の上に神の祝福がありますように、そしてあらゆる地に住むあらゆる人々が共に幸せをつかむことができますように。また、現在職を失って苦労している人々や、失業の恐れと闘っている人々の上に、神の恵みがありますように。私たちが、時の始めより福音の一部であった自立と高潔という原則に従って生活することができますように。福音はまさに真実であります。これらの証をすべてイエス・キリストのみ名により申し上げます。アーメン。

